



大臣官房文書課広報室 課長補佐
恵崎 恵 Megumi Ezaki
 【平成17年入省】
 平成17年 大臣官房文書課
 平成19年 仙台国税局
 平成20年 金融庁総務企画局市場課
 平成22年 留学(英・インペリアル・カレッジ・ロンドン)
 平成23年 留学(英・オクスフォード大)
 平成24年 国税庁長官官房国際業務課 課長補佐
 平成25年 育児休業

この国の一人として~子供を持って、見えたこと~

「アベノミクスの第3の矢は進捗が見えないが、成果は上がっているのか?」海外投資家からの質問に、日本の経済・財政状況から労働市場改革まで多数の資料の詰まった冊子をめくりながら答える。「特に近年、女性の労働参加率が上昇しています。これは、安倍首相が成長戦略の柱として、『女性の活躍推進』政策を推し進めてきた成果の一つと言えます。」面会后、参加者の一人から「データだけでなく、日本でも女性が頑張っているのを実際に見ることができてうれしい」と言葉をかけられ、背筋が伸びる思いがした。

私は現在、広報室で、海外投資家等への日本経済・財政の説明や、国民の財政への理解向上を図るべく様々な広報活動を行っています。同時に、2歳の息子を持つ母親でもあります。打ち合わせや資料作成を済ませて職場を飛び出した後は、21時の寝かしつけまでに子供のお迎え、夕食、お風呂入れと、怒涛のような日々。時には子供が寝た後に自宅から職場のパソコンにアクセスして仕事をしたり、理解ある上司や同僚に助けられながら、何とか笑顔で仕事と

育児に奮闘しています。

現在の生活や仕事を通じて改めて実感しているのは、自分の年金や医療、税負担といった「ミクロ(自分の身の回りのこと)」の事項と、それら制度が全体として持続可能なものになるためにはどうあるべきかという「マクロ(国全体のこと)」の事項はつながっているのであり、自分達の受益と負担をどう考えるか、子供達にどんな未来を遺したいか、国のかたちを私達が選んでいく際には、それら両面から考えなければならない、ということです。もともと私は、「人々が笑顔で暮らせる社会の実現に貢献したい」とこの仕事を志しましたが、結婚・出産し、自分や家族の現在・将来の生活に向き合う機会を得て、改めて、その『人々』の一人が自分や家族なのだという「ミクロ」の視点を具体化・再認識することができました。だからこそ今、「ミクロ」のサービスが持続可能なものとなるためにも、「マクロ」の国全体を良くしたいという想いが、より一層強くなっています。

その意味で、予算や税制といったツールを使って「ミクロ」と「マクロ」の両面から政策を立案するという、ダイナミックかつ「いち国民」としての感覚が求められる財務省の仕事は、文句なしにやりがいがあります。そして、そんな財務省で出会う人々も魅力的です。「自分の払っている税がこんな政策に使われているのか。」「自分も一人の父親であり、人間だ。」「僕達は理想を売っているんだ。」これらは、これまで様々な議論の中で、上司が言った言葉です。熱い想いを持ち続けている人々と一緒に働くことはとても刺激的で幸せなことですが、自分自身もまた、年を重ね、人生のステージを一段一段登るにつれて、一人の人間・親として、この国全体のために何ができるかという熱い想いが、増している気がします。それも、財務省の仕事が、日本の在り方を「ミクロ」と「マクロ」の両面から考え、私達の現在・未来と密接に関わる課題に取り組む仕事だからなのだろうと思います。志あふれる皆さんと、地に足のついた議論で日本を形作る仕事ができることを、楽しみにしています。



金融庁総務企画局市場課 市場調査第一係長
澤田多実子 Tamiko Sawada
 【平成22年入省】
 平成22年 主税局調査課
 平成24年 仙台国税局 兼IMF・世銀総会準備事務局

新しい自分との出会い

私は現在、金融庁の市場課という部署で働いています。市場課の役割は、金融商品取引法を中心とした金融・資本市場に関する規制の整備などを通じて、経済社会の血液と言われる金融の活性化を図ること。例えば昨年は、投資型クラウドファンディングの参入要件を緩和する法改正が行われました。

クラウドファンディングとは、インターネットを通じて多くの投資家から少額の出資を募る仕組みで、社会的事業などの資金調達手段として、東日本大震災以降広がっています。以前、東北で出会ったあるボランティアの方は、被災地に色とりどりの気球を揚げるといった活動をされていたが、その燃料費を賄うために彼女が選んだのもクラウドファンディングでした。

この仕組みを、新しいアイデアや技術を持つベンチャー企業の資金調達にも広げるための取組が、昨年行われた法改正です。挑戦の芽を育てるにはどういった市場環境が求められるのか、議論する毎日です。

一昨年結婚した夫は主税局で忙しく働く同期でもあります。平日に二人の時間を十分に取ることはなかなか難しいですが、休日に二人で近所を散歩し、カフェで本を読むというささやかな時間が何よりのリフレッシュになっています。料理は週末だけ、掃除はお掃除ロボットにお任せ。まだまだ道半ばではありますが、お互いが仕事での夢を追いながら、家族の時間も充実させる。そうした仕事と家庭の新しい「両立」の形を模索しながら、日々を送っています。そしてなにより、新しい家族や地域とつながりができ、視野が広がったこと、心のゆとりが生まれたことは何ものにも代え難い財産です。

入省して5年、これまで多くの、それも一流の出会いに恵まれました。入省時の配属先の主税局で、また出向先でその分野のプロフェッショナルと出会いました。また、世界で活躍する先輩から国際交渉の経験談を聞くことも度々です。IMF・世銀総会でお会いしたラガルド専務理事は、シャネルを着こなし、スタッフへの心遣いを忘れない、本当に魅力的な女性でした。財務省で刺激的な出会いが待っていることを私は保証します。皆さんとの出会いを楽しみにしています。

刺激と食の間で

私は、現在、大臣官房文書課において、財務省所管の法令等の審査を担当しております。毎日試行錯誤しながら業務に取り組んでおりますが、自分が審査した法案が国会に提出されたときは、小さな歯車に過ぎないけれども、日本の税制の一端を担うことができたということへの興奮とやりがいを覚えましたし、省内及び他省庁等との調整を行う中で、財務省ひいては国が動く躍動感を垣間見たときには、ぞくぞくするような感覚を覚えるなど、飽きるという言葉を忘れた刺激的な日々を送っています。もともと、腹が減っては戦はできないため(?)、終業後は美味しいものについての情報収集を行い、休日に友人と一緒に小旅行に出たりして、趣味の飲み食いを満喫しています。このような楽しい趣味の時間を確保すべく、自分の抱えている案件について期限等を正確に把握した上で、優先順位をつけて仕事に取り組むようにしています。予定通りに行かず、失敗することもあります。周囲の方から手助けしていただき、刺激と趣味をほおぼりながら、楽しく働いております。このパンフレットをご覧の方にも、自分が楽しく働ける場所を見つけていただければと思います。

大臣官房文書課
浅見万葉 Mayo Asami
 【平成25年入省】

